戯曲

弘津千代（ひろつちよ）

柳井市

（1901～1983）

弘津千代（本名、チヨ）は、山口県柳井市の出身である。大正末期から昭和戦前の約十五年間、劇作家として華々しい活躍をし、山口県では数少ない劇作家として忘れてはならない存在である。日本女子大学在学中から劇作家中村吉蔵に師事し、大正十四年には「吉田御殿」（原題「天樹院」）が帝国劇場で上演されるなどした。千代の作家的地位を確立した作品は「妖鱗草紙」（後に「蛇性の姪」と改題）で、戦後も再三上演された。八十二歳で没するまで、三十編にも及ぶ戯曲、評論、十三編の歴史小説を残している。

（村上省吾）

【主な著作】

『戯曲華子城物語』

（山原たづ著、新光社、大正11年）

『新兒童劇集』

（児童劇研究會、日本學藝社、昭和20年）